



<http://www.nakagawa.ed.jp/esbato/>

- 県音楽祭中央祭出場 (合唱部)
- 楽しくハートフルコンサート
- 新ALT紹介
- ホントノキズナ (読書週間)
- 芸術創造への努力 (広重を変えた批評)
- 入賞おめでとう!

平成 24 年 10 月 31 日
馬頭小学校
TEL0287-92-2025
FAX0287-92-2029

県音楽祭中央祭出場

栃木県小学生音楽祭中央祭
10 月 22 日(月)

10 月 22 日(月)、栃木県教育会館で栃木県学校音楽祭中央祭が開かれました。馬頭小学校合唱部も南那須地区の推薦を受け、参加してきました。昨年・一昨年に引き続いての連続出場となりました。地区の音楽祭の時に比べさらに磨きがかかり、より響きのある歌声で歌えました。

審査員の先生からは、歌声が美しいことや丁寧に歌っていることなどの講評をいただきました。ここまで、ボランティアでご指導くださった米田さんにも感謝いたします。また、当日は、たくさんの保護者の方にも宇都宮までお越しいただきご声援をいただきました。大変ありがとうございました。



【審査員の講評】

- ・ていねいな歌い出しで、言葉も伝わるしっかりとした発声です。繰り返しのメロディーですが、徐々に盛り上がり、一体感のある演奏ができました。
- ・透き通った美しい歌声が会場に響きました。ていねいな歌い方で聴く人をやさしい気持ちにしてくれる演奏でした。ピアノ演奏もやわらかいタッチで曲想をよくとらえ、歌と伴奏がよくマッチしていました。歌い終わった後の余韻が十分に伝わりました。すてきな演奏をありがとうございました。
- ・リズムにのって美しい歌声です。発声も自然でやわらかな声ですばらしいです。口の中を開けて声を響かせると更にのびやかな声になると思いました。みなさんの心が一つになりすばらしい演奏でした。

楽しくハートフルコンサート

10 月 27 日(土)あじさいホール



PTA研修部主催の「ハートフルコンサート」が開催されました。今年も宇都宮ウィンドクルーのメンバーを招き、馬頭小合唱部とのコラボレーションを行いました。合唱部は、県音楽祭で発表した「パームパーム」を披露。ウィンドクルーは、吹奏楽曲の他にも、坂本冬美メドレーなど親しみやすい曲の演奏もあり、喝采を浴びました。また、子ども達の体験コーナーも用意されており、大変楽しい時間を過ごすことができました。

新ALT紹介

ジェシカ・オガタ先生

- ・アメリカ／カリフォルニア州出身
- ・カリフォルニア大学で日本語学を専攻しました。
- ・祖父が福岡県のご出身だそうです。



ホントノキズナ

全国読書週間 10月27日～11月9日
校内読書月間 10月25日～11月19日

読書の秋ですね。全国的には、10月27日から、「ホントノキズナ」をテーマにして読書週間が行われます。校内においては、少し期間を長くして、10月25日～11月19日までを「校内読書月間」として、本に親しみ読書活動を促進するために様々な活動を展開します。

オープニングは、町の読み聞かせボランティア「たまご」のメンバー4人による読み聞かせと創作劇が10月25日に開催されました。劇は、「3匹の子ぶた」。今回、メンバーがグリム童話をもとに脚色した新作です。舞台装置、人形や家などの道具、演技など、どれも素晴らしい出来で、子どもたちも劇に引き込まれていました。(写真右) 読書週間の詳細は、「図書館だより」をご覧ください。



入賞おめでとう!

読書感想文コンクール

優秀賞

2年・白石さん 4年・大野くん
4年・星さん 5年・藤田さん
6年・高野くん

優良賞

5年・川上さん

佳作

1年・宮田さん 2年・吉川さん
3年・星くん

ふくしのまち絵手紙展

銀賞

5年・藤田さん 6年・吉成さん

銅賞

4年・吉川さん 5年・止部さん
6年・薄井くん

南那須地区音楽祭

優秀賞 馬頭小学校合唱部(県中央祭出場)

南那須地区小学校陸上競技大会

第1位 平塚くん(6男 100m)

第1位 磯野さん(6女 80mH)

第2位 江面くん(5男 100m)

第2位 車さん(6女 800m)

第2位 岡さん(6女 走り幅跳び)

第2位 星さん(6女 ボール投げ)

第3位 近藤さん(5女 走り高跳び)

第3位 五十嵐さん(5女 走り高跳び)

第3位 岡さん(6女 走り高跳び)

第3位 和知さん(6女 ボール投げ)

芸術創造への努力

広重を変えた茶屋の主人の批評

「東海道五十三次」で有名になった広重は、ある日、ブラッとお出かけた先で茶屋に寄りました。茶屋の主人は、相手を広重とは知らずに、彼の絵の批評をします。「今どき、あんな格好の旅人はいない。」とか「道中の風物も実際には見て描いていない。」と批評は辛辣でした。普通なら、素人のたわごとと受け流してしまうところでしょうが、広重は自分の絵筆に満足していなかったのです。これを機に旅に出、道中での写生を志したそうです。

広重美術館の市川館長によると、広重は、多くの冊子を参考にしながら絵を描いてはいるが、自らも各地を旅行しながら記録を残しているそうです。祭の幕絵の依頼を受け甲府まで旅した時の「甲州日記写生帳」などは、その一つです。

彼の名声は、地方にも浸透していたようですが、その人気と実力の根底には、素人の批評なども真摯に受け止める創作姿勢と芸術創造への努力があったのかも知れません。広重の作品は、今から180年前の人々の姿や風物が描かれているのが特長です。当時の人々が彼の絵で、家にいながら東海道を旅したと同じように、現代の私たちは、美術館で彼の絵を見ながら江戸時代にタイムスリップすることができます。

※「広重と東海道展」(馬頭広重美術館/後期～11月18日まで)